

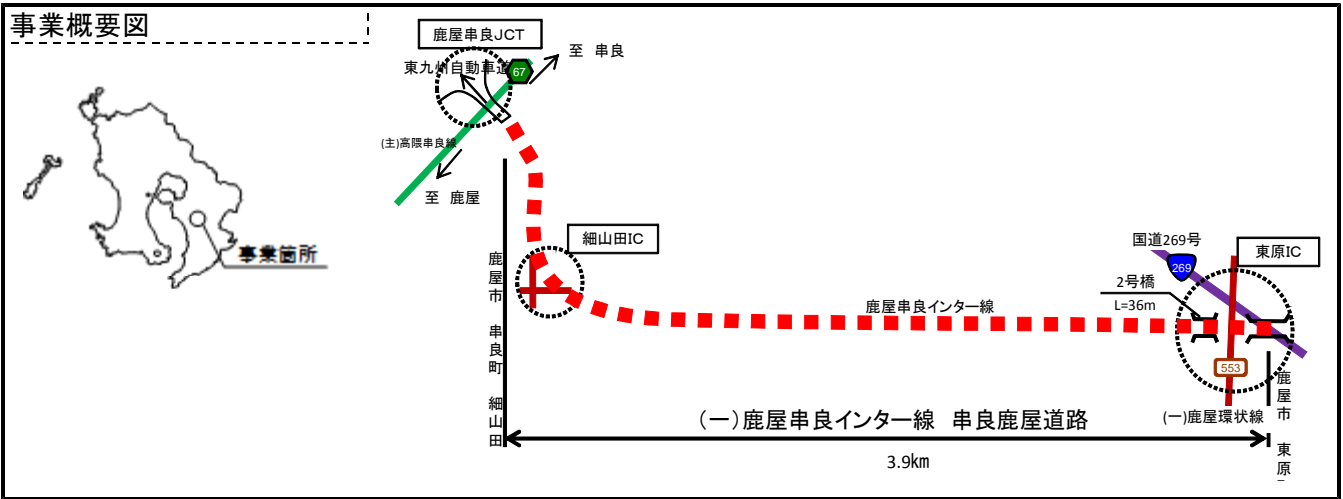
再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 環境安全課

担当課長名：増田 博行

事業名	地域高規格道路 <small>おおすみじゆうかんどう</small> 大隅縦貫道（I期） 一般県道 <small>かのやくしら</small> 鹿屋串良インター線 <small>くしらかのやどろ</small> 串良鹿屋道路	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県
起終点	自： <small>かごしまけんかのやしくしらちようほそやまだ</small> 鹿児島県鹿屋市串良町細山田 至： <small>かごしまけんかのやしひがしぼるちよう</small> 鹿児島県鹿屋市東原町			延長	3.9km
事業概要					
串良鹿屋道路は、東九州自動車道鹿屋串良JCTと国道269号の東原ICを接続する延長3.9kmの地域高規格道路である。当該道路の整備により、東九州自動車道と一体となった広域交通ネットワークが形成され、大隅地域から鹿児島空港へのアクセス向上や農畜産物の物流の効率化による産業の振興に寄与するものである。					
平成12年度事業化	平成8年度都市計画決定 (平成25年度変更)	平成12年度用地着手	平成15年度工事着手		
全体事業費	77億円	事業進捗率	75%	供用済延長	0km
計画交通量	19,000～19,800台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 4.7 (残事業) 24.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 17 / 90 億円 事業費：15/88 億円 維持管理費：1.5/1.5 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 421 / 421 億円 走行時間短縮便益：264/264 億円 走行経費減少便益：83/83 億円 交通事故減少便益：74/74 億円	基準年 平成25年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=4.4～5.1 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=23.5～26.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=4.3～5.2 (事業費±10%) 事業費：B/C=22.7～27.2 (事業費±10%) 事業期間：B/C=4.5～4.9 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=24.6～24.9 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（空港へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化の支援（農畜産物の流通性が向上） ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路整備区間指定 肝属郡串良町～鹿屋市 H10.12 6km） ・個性ある地域の形成（観光地へのアクセス向上が期待される） 					
関係する地方公共団体等の意見					
・地元市町村（4市5町）で構成される大隅総合開発期成会より早期整備の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見					
・事業継続が妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年1月1日に鹿屋市、輝北町、吾平町が合併し「鹿屋市」となる。 ・東九州自動車道の国分IC～末吉財部ICが平成14年3月2日に、末吉財部IC～曾於弥五郎ICが平成22年3月14日にそれぞれ開通した。 					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗率75%、用地進捗率100%（平成24年度末） ・残る工事を推進し、平成26年度暫定2車線での開通を予定 					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
・地元や関係機関との協力体制のもと早期供用に向け工事等の事業進捗を図っていく。					
施設の構造や工法の変更等					
・他工区（農業用利水ダム等）からの流用土を盛土材として利活用するなどコスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
・以上の事業の効果等の内容、鹿児島県事業評価監視委員会における審議の内容を踏まえると、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。